

東海正信連合会 第25回大会を開催



3月4日(日)第25回東海正信連合会の大会が静岡県磐田市の本妙院(奥興正住職)で開催された。大会に先立ち、東日本大震災被害者への第一周忌追善法要が、奥住職を導師として営



引き続いて応身寺法華講の大坪香織さんと勝又明子さんの司会進行で大会に移り、はじめに副幹事長の大石壽太郎さん(専行寺法華講)が開会のことばをのべ、次で幹事長の太田年太郎さん(本妙院法華講)が挨拶、この大会を契

機に静岡・神奈川の同志が、実さんが、講中の子供会や

まもも会」の役員をしていることから、その活動を通して、あせらずじつくりと子供たちの信仰心を育み、法燈相続して行くことの大切さを語り、また、大震災をきっかけに生と死を意識するようになったので、仏縁を大事にしてこれからの精進して行きたいとのべ

た。次に妙覚院法華講の中心に今日まで信仰を継続してきたことを話し、これ

成は志を立てた僧俗の責任であることを語った。その上で学会や宗門の間違ひから覚醒したかもしれないが、宗開三祖の教えに本当に目覚めているかどうか最も大事であることを強調。運動も約35年の時を経過しており、運動当初とは内外の環境が大きく変化しているとして、改めて覚醒運動の意義と現状について丁寧に説明した。今後の展望では、「宗開三祖の教えを真摯に求め、宗教法人正信会を活用」して未来を切り開いて行こうとのべた。

来たる4月8日(日)午前10時より、目上入ゆかりの岐阜県天奏寺において、宗教法人正信会の教師補任式が挙行される。補任式は僧道を志して得度した僧侶が、十数年の修行を経て教師に補任され、はじめて登高座しての説法を許される儀式。本宗僧侶にとっては三世の大願とされる。

昨年の教師補任式は直前に起こった東日本大震災のために一年延期となり、今春の補任式には、挙式予定であった大山興厳師(横浜妙法院在勤)と米森法樹師(熊谷市法潤寺在勤)の両師と、川田仙征師(札幌市行足寺在勤)の三師が臨む。三師は前に所定の論文を提出し、審査の結果、補任式の挙行を許された。

意義深い教師補任式。式に臨む三師はもちろん、各師匠と講中の喜びはひとしおであろう。正信会の未来は若い僧侶が有縁の信徒と手を携えて、使命感をもって切り開いて行かねばならない、その高い志に大きな声援をおくりたい。

4月8日(日) ご案内
教師補任式
宗教法人正信会

論苑

このところしばしば「正信会統一見解」なるものが強調される。有志の会の抗議を強引に押しきって強行した選挙で、新議長に選ばれましたという古川興道師も『継命』2月15日号で挨拶

を載せているが、ここでもこれを述べている。

その正信会統一見解とは、
一、本門戒壇の大御本尊を断じて否定するものではない。

二、宗開兩祖の御教示、御遺訓を正しく弁えられ厳護される法主上人に対し奉つては、血脈付法の大導師と信伏随順申し上げるのは当然であって、我々もそれを心から望んでいるのである。

三、今回の騒動の元凶たる池田大

住職で、当時日蓮正宗会議長であった久保川法章師が、「究極の御本尊」という論文で、偶像崇拝化してしまつた近年の唯物的戒壇本尊観を批判し、「世界宗教への脱皮」という論文で貫首本仏思想に偏向している阿部宗門の血脈観に批判を加えたことがあつた。これに対して阿部宗門は「戒壇の本尊と血脈を否定した」という教義違反の理由で久保川師を擯

作氏の謗法行為は断じて見逃す訳にはいかないし、それを容認、弁護するが如き管長、宗務当局の在り方は明らかに誤りである。これが作成された経緯をいうと、大阪・蓮華寺

が採用されたわけでもなく、阿部宗門の稚拙な批判にとりあえず対応しただけのことである。なおこの三ヶ条の統一見解のうち、三番目の池田氏に関する事項は、今では無効として取り上げられることはない。すなわちこの見解は運動の現状に即していないことを物語っているのである。まして起草に関わった人たちの戒壇本尊観や血脈観、法主観を以て正信

の当時戦術的にそうしたのであれば、あらためて統一見解として認めるか否か、今一度正信会の全員に問うべきである。おそらく、今後あらゆる場面でこの統一見解が強調されるのだから、個々の信仰の内心がこんなもので縛られることはない。

「正信会統一見解」とは、
会の統一見解と謳われることは迷惑な話である。よしんばその当時戦術的にそうしたのであれば、あらためて統一見解として認めるか否か、今一度正信会の全員に問うべきである。おそらく、今後あらゆる場面でこの統一見解が強調されるのだから、個々の信仰の内心がこんなもので縛られることはない。

成は志を立てた僧俗の責任であることを語った。その上で学会や宗門の間違ひから覚醒したかもしれないが、宗開三祖の教えに本当に目覚めているかどうか最も大事であることを強調。運動も約35年の時を経過しており、運動当初とは内外の環境が大きく変化しているとして、改めて覚醒運動の意義と現状について丁寧に説明した。今後の展望では、「宗開三祖の教えを真摯に求め、宗教法人正信会を活用」して未来を切り開いて行こうとのべた。

行事案内

- ※第2回妙眞寺法華講総会 4月1日 10:30
東京都大田区 03-6410-7677
- ※第19回妙報院法華講総会 4月15日 13:00
静岡県御殿場市 0550-87-6420
- ※第34回応身寺法華講総会 4月15日 13:00
静岡県藤枝市 054-643-5700
- ※第7回円乗寺法華講総会 4月22日 13:00
千葉県香取市 0478-52-1343
- ※第12回信敬寺法華講総会 4月22日 13:00
広島県呉市 0823-30-3236
- ※「富士法門研鑽勉強会」4月29日 13:00
兵庫県妙宣寺 072-770-1333
- ※広徳寺創立記念法要並びに法華講総会 5月5日 10:00 徳島県 0883-52-2023
- ※第33回妙宣講総会・妙宣院主管座替式 5月27日 13:00 兵庫県 072-758-3393



3月4日(日)静岡県磐田市の本妙院を会場に開催された第25回東海正信連合会大会では、大山謙道師(横浜・市妙法院住職)が講演。「覚醒める」と題して仏道の本義についてのべた後、正信覚醒運動の意義と現状を説明し、さらに今後の運動の展望について語った。

大会参加者には内容の一部がメモとして配布されたのでここに掲載する。

【東海正信連合会大会に参加された皆さまへ】

私たちの東海正信連合会は、富士日興門流に興起した正信覚醒運動に参画し連携している静岡県と神奈川県の寺院・講中の連合会です。

正信覚醒運動というのとは本来「祖道の恢復」という

日蓮大聖人のまことの教えを蘇生させることを願い、信仰、世俗的な罰と功德論等を中心とする学会の邪義を正し、また、貫主への信仰を強制し、戒壇本尊の偶像崇拜化をはかる阿部宗門の邪義を正して、富士日興門流本来の法義と信仰を求める運動といえましょう。

祖道の恢復と宗風の刷新

覚醒運動の目的を確認しよう

幸いにも私たちは学会や宗門の間違ひには醒めることができました。しかし大切なことは、その後の富士日興門流の教えに醒めているかどうかということであり、生涯をかけて宗門とが覚醒運動の本義ではないでしようか。

この運動は志を同じくする全国の僧侶が集って連携してきました。誰かに指導されたり命令された運動ではありませんから、金太郎

を増し、昨春秋には岡田法裕師が正信会議長の職を辞して新たな機構の編成を求められ、このように「宗開三祖の教えを求め、包括法人を活用して運動の未来を開く」という意見に立ち、

創価学会の間違ひに目覚め、正信の道を歩んであつという間に三十数年が経ちました。正信覚醒運動とは、大聖人様の教えを正しく受持することと同時に、広く世に伝えてゆく運動で、さか

創価学会の間違ひに目覚め、正信の道を歩んであつという間に三十数年が経ちました。正信覚醒運動とは、大聖人様の教えを正しく受持することと同時に、広く世に伝えてゆく運動で、さか

創価学会の間違ひに目覚め、正信の道を歩んであつという間に三十数年が経ちました。正信覚醒運動とは、大聖人様の教えを正しく受持することと同時に、広く世に伝えてゆく運動で、さか

創価学会の間違ひに目覚め、正信の道を歩んであつという間に三十数年が経ちました。正信覚醒運動とは、大聖人様の教えを正しく受持することと同時に、広く世に伝えてゆく運動で、さか

目覚めることを銘肝して

妙法院法華講 中澤順子

創価学会の間違ひに目覚め、正信の道を歩んであつという間に三十数年が経ちました。正信覚醒運動とは、大聖人様の教えを正しく受持することと同時に、広く世に伝えてゆく運動で、さか

創価学会の間違ひに目覚め、正信の道を歩んであつという間に三十数年が経ちました。正信覚醒運動とは、大聖人様の教えを正しく受持することと同時に、広く世に伝えてゆく運動で、さか

創価学会の間違ひに目覚め、正信の道を歩んであつという間に三十数年が経ちました。正信覚醒運動とは、大聖人様の教えを正しく受持することと同時に、広く世に伝えてゆく運動で、さか

創価学会の間違ひに目覚め、正信の道を歩んであつという間に三十数年が経ちました。正信覚醒運動とは、大聖人様の教えを正しく受持することと同時に、広く世に伝えてゆく運動で、さか



正法を求め次代に継承

応身寺法華講 梅原慶一

創価学会の間違ひに目覚め、正信の道を歩んであつという間に三十数年が経ちました。正信覚醒運動とは、大聖人様の教えを正しく受持することと同時に、広く世に伝えてゆく運動で、さか

創価学会の間違ひに目覚め、正信の道を歩んであつという間に三十数年が経ちました。正信覚醒運動とは、大聖人様の教えを正しく受持することと同時に、広く世に伝えてゆく運動で、さか



参加者の声

今回の東海正信連合会の大聖人様を、絶対にお心に一つでも二歩でも近づいてゆこうと、宗開三祖の教えに目覚めなければならぬことを、銘肝して、大聖人様の御教を、正しく受持することと同時に、広く世に伝えてゆく運動で、さか

創価学会の間違ひに目覚め、正信の道を歩んであつという間に三十数年が経ちました。正信覚醒運動とは、大聖人様の教えを正しく受持することと同時に、広く世に伝えてゆく運動で、さか

創価学会の間違ひに目覚め、正信の道を歩んであつという間に三十数年が経ちました。正信覚醒運動とは、大聖人様の教えを正しく受持することと同時に、広く世に伝えてゆく運動で、さか

聖人御難事

弘安2年10月1日
〈全集一八九〉

去ぬる建長五年〈太歳癸丑〉四月

二十八日に、安房の国長狭郡の内東条の郷、今は郡なり。天照太神の御くりや

（厨）、右大将家の立て始め給ひし日本

第二のみくりや、今は日本第一なり。此の郡の内清澄寺と申す寺の諸仏坊の持仏堂の南面にして、午の時に此の法門申

しはじめて今に二十七年、弘安二年へ太歳己卯なり。仏は四十余年、天台大師は三十余年、伝教大師は二十余年に、

出世の本懐を遂げ給ふ。其の中の大難申す計りなし。先々に申すがごとし。余は二十七年なり。其の間の大難は各々かつしろしめせり。

御心を拝して

建長五年四月二十八日は、現代の暦では6月2日にあたります。初夏の日差しが照り出す、その払暁に清澄寺の嵩ヶ森の頂に立たれて昇り来る朝日に向かい、大聖人は未曾有の南無妙法蓮華経を初めて唱え出されました。それは法界に告げる末法の白法の産声でもあったの

れます。『聖人御難事』は二十七年前のその日を思い起こされての御書です。梵音を唱え出された大聖人は、その日の正午に諸仏坊の持仏堂で大衆に向かい法華経を第一とする説法を初めて講じたのです。念仏を批判された清澄寺の大衆や地頭の東条景信は、長い遊学を終えてもどった大聖人の思いもよらぬ説法にいきどおりました。それは清澄寺の信仰を根底から批判するも

御書本文および現代語訳、資料などは「御書システム」を活用

現代語訳

日蓮は去る建長五年（一二五三）四月二十八日に、安房の国長狭郡の内東条郷で法華経の教えを弘めはじめた。東条郷は今では郡になっているが、天照大神の御厨がある。右大将源頼朝が立てられた時は日本第二位の御厨だったが、伊勢の皇大神宮が衰えた今は日本第一位の御厨である。

この東条郷の内にある清澄寺という寺の諸仏坊の持仏堂の南面で、四月二十八日の正午にこの法華経の法門を説きはじめてから、今弘安二年（一二七九）にいたるまで二十七年の歲月が流れた。

釈尊は法を説きはじめてから四十余年で本義たる法華経を説かれ、中国の天台大師は三十余年、日本の伝教大師は二十余年をへて、それぞれ出世の本懐をとげられた。その間にどれほどの大難があつたか、とても言葉ではいいつけせない。これについては、以前から度々申し上げている通りである。私の場合は二十七年で出世の本懐をとげた。その間の大難については、すでにおのおの方がご存知である。

では何故、そのうまでして忍ばれたのでしょうか。そのことを『諫曉八幡抄』（全集・585）には、「ただ妙法蓮華経の五字七字を日本国の一切衆生の口に唱えさせようと精進してきた。これは母親が生まれて間もない

我が子に乳を飲ませようと懸命に励むのと同じ慈悲の心」と申されます。世間体でいえば、決してめぐまれていない

【二辺の中はいつべつ】とりわけもつとも過酷な生活之余儀なくされた佐渡において、次のように仰せです。「いわずば慈悲なきにたりと思惟するに、法華経・涅槃経等に此の二辺を合はせ見るに、いわずば今生は事なくとも、後生は必ず無間地獄に墮つべし。いうならば三障四魔必ず競ひ起こるべしとしりぬ。二辺の中はいうべし」【開目抄】と。妙法信受が

のだったからです。説法が終

＊文永十一年（1274）身延入山

澄寺を追われることになったのです。

【二辺の中はいつべつ】

【二辺の中はいつべつ】

いわずば慈悲なきににたりと

たしかかな覚悟で法難の道に向う

【法難の道】

逃れて鎌倉に居をかまえた大聖人は、ひるむことなく法華経弘通の歩を着実に進めま

申状（全集・85）には、「聖人は頭を傷つけられ、左の手を打ち折られた上に、伊豆と佐渡の二度にわたって流罪の責め苦を受けた。また、弟子や信徒たちも諸所で射殺され、切り殺され、そのほか殺害・刃傷・禁獄・流罪・打擲・追放・罵詈など

の法難は、とても数え上げることができない」と自ら説明されています。

【二辺の中はいつべつ】

【二辺の中はいつべつ】

- ・文応元年（1260）―「立正安国論」上呈
- ・文応元年（1260）―松葉谷法難
- ・弘長元年（1261）―伊豆流罪
- ・文永元年（1268）―東条松原法難
- ・文永八年（1271）―竜口法難および佐渡流罪



余 話

「梵音」とは梵音声ともいい、仏さまの三十二相の一つです。すぐれた徳のある容貌を示す32種の特質をいいます。眉間にほくろのある人がほめはやされたりしますが、これも三十二相の一つをなぞらえているのです。32番目の特質に、「眉間白毫相」があります。両眉の間に長い白毛が右まわりに巻いてはえていて、ここから光を放つそうです。28番目が「梵声相」で、音声

薩の慈悲の心に背くに違いない。今生は事なく過ごせたいものです。

富士の源流をたずねて —法門の扉を開く—

昨年3月11日、千年に一度という未曾有の東日本大地震が発生しました。今回の震災では津波の被害も甚大であり、想像を絶する自然の破壊力の前に、人間の力は何んと無力であるかを実感させられました。そして、この震災でさらに衝撃な出来事は原発神話の崩壊でした。どんな災害にも耐えうると知らされていたのに、津波にのみ込まれて爆発し、大量の放射能を放出してしまいました。現在に至っても原発周辺は警戒区域となっていて立ち入れない状況が続いています。そればかりか被害は様々な方面に影響し拡大し続けています。今回の原発事故から、この狭い国土に数多くの原発が存在していることにも驚きましたが、私達がその原発が生み出すエネルギーにすっかり依存してきたのもまた事実です。どうやら私達は原発の安全についての認識よりも生活の利便性に先走り、危険性さえも感知できなくなっていたようです。

真の豊かさとは

今回の東日本大震災からは、現代社会がもたらす物の豊かさとは人生の豊かさとは異なるということに気づくきっかけとなりました。

“真の豊かさとは一人ひとりの心のありように関わっている”と誰もが感じつつも、欲望に負けて自然と共に生きるという最も大事なことをさえずっかり忘れて過ごしてきました。

そうした私たちの心をも震災は揺り動かしたのでしょ。う。「絆」が復興支援のキーワードとなっています。これも、目先の利益だけを追い求めた結果、人と人のつながりや信頼など、生きる道を見失ったことへの反省が込められているのではないでしょう

か。「絆」という一文字に、人と人とのつながりや信頼を取り戻していきたい、との強い願いが込められているのだと思います。

そのような想いを込めて行われてきている復興支援でも、瓦礫の処理では放射能の問題が大きな壁となり、何とかとほころびも目立ちはじめてきています。

こうした復興支援のあり方一つからでも、現代社会が多くの矛盾を抱えていることが知れましよう。それだけに私達は真の豊かとは何なのか、

指す機関紙として『妙風』が創刊されることも関連してきます。

『妙風』との命名は日興上人の『遺誠置文』に由来しておりますが、その冒頭には、末法弘通の恵日は極悪謗法の闇を照らし、久遠寿量の妙風は伽耶始成の権門を吹き払う。

と仰せになつて、大聖人が末法に弘通されるご法門は久遠寿量の「妙風」であり、諸宗の権門、すなわち仮の教えである邪教を吹き払うとされています。

現代社会を救う大聖人の教え

日興上人がその扉を開く

あらためて学び直す必要があります。

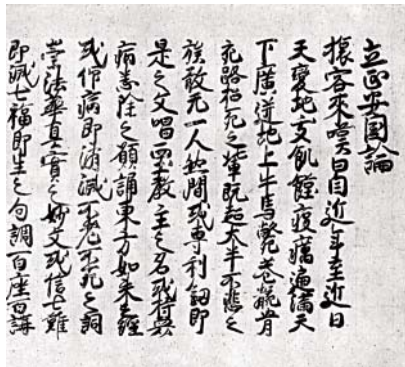
現代社会の苦悩を救う教え

そこで、このシリーズでは、大聖人の教えが現代社会の苦悩を救い、真の豊かさを説いていることを、皆さんともに学んでいきます。

このことは、この度、正信覚醒運動の真の目的は、宗開三祖の教えを現代社会に説き示すことにあることを改めて標榜し、更なる推進を目



東日本大震災から一年を過ぎても、至る所に瓦礫が巨大な山のように積み上げられている（石巻市内で撮影）



『立正安国論』

では、さつそく開かれた扉から鎌倉時代の状況から見ていきましょう。

大聖人は自ら法華信仰の弘通開始を宣言された建長5年(1253)の立教開宗により、

『立正安国論』(中山法華経寺蔵)の冒頭には、大聖人が目の当たりにされた被災状況を旅客の言葉を通して生々しく描写されている。

流にも随従され、赦免となられた大聖人を地頭・波木井氏との縁により身延山に迎えられています。日興上人のご遷化は正慶2年(1333)ですが、この年に鎌倉幕府の北条氏が滅

びます。このように大聖人と日興上人が過ごされた鎌倉時代は、北条氏の全盛期から滅亡までとなります。

その鎌倉時代は、震災をはじめ様々な災害、また疫病などの災難が多発した時代でもありました。

大聖人もその惨状を直接体験されています。そのことが『立正安国論』の

地頭・東条景信の迫害を受けた後、清澄寺からの退出を余儀なくされます。

その後、鎌倉に入られますが、その時期は建長8年頃と想定されています。

4年余り伊豆・佐渡への流罪地で過ごされていますが、文永11年(1134)に身延に入山されるまで鎌倉にて活動されます。

日興上人は、大聖人が『立正安国論』を作成するため岩本・実相寺の一切経蔵を閲覧した時、帰依したと伝えられています。日興上人は佐渡配

コラム「時の話題」 ～蒙古襲来と神風～



鷹島神崎遺跡の調査風景。ダイバーの前にあるのは沈没船の一部とみられる木材（写真は朝日新聞デジタルより転載）

蒙古の襲来は二度。二度目の弘安の役では、7月1日の夜に台風が直

日本が最初に他国の侵略を受けた歴史的な事件が七百余年の歳月を経て私達の前に姿を現そうとしている。海に沈み今再び海から浮かび上がるようにしている歴史に注目していきたい。

日蓮大聖人が『立正安国論』で予証された二つの大難。その一つ「他国が一夜で壊滅したと伝えられる蒙古襲来」となっている。それにより大聖人は諸宗の邪法を退治するとの確信を深めていかれ、『立正安国論』の諫言を無視し、諸宗の祈祷に頼った鎌倉幕府は滅亡へと突き進んでいった。

この記述を裏付ける証拠が松浦市鷹島町神崎沖の海底から発見されている。1994年には木製の大きな船が出土。また、住民が海岸で拾った「管軍総把印」は、元の公用文字「パスパ文字」が入った指揮官の印鑑で、船団沈没を決定づける重大な発見となった。

01年には、蒙古軍の戦いを描いた「蒙古襲来絵詞」に出てくる、さく裂弾「てつはう」が引き揚げられるなどこれまで4千点近い遺物が確認されている。こうしたことから、文化審議会は「鷹島神崎遺跡」として、国の史跡に指定するよう文部科学相に答申した。

日本が最初に他国の侵略を受けた歴史的な事件が七百余年の歳月を経て私達の前に姿を現そうとしている。海に沈み今再び海から浮かび上がるようにしている歴史に注目していきたい。

現状を直視し未来を展望

謹 啓
満山紅葉、行楽に絶好の季節となりました。
皆様には正信会のため常日頃からのご尽力大慶に存じ上げます。
この度、私は正信会議長の職を辞しました。突然の辞職で皆様に大変ご迷惑をおかけすることになり申し訳なく思っています。また、無責任のそしりは免れないものと覚悟いたしております。
私 事
浅学非才をも省みず正信会議長の重職を受けてより今日まで四年半、私なりに懸命に努力をしてまいりました。
一期目は二分されそうな会内の模様を、何とかひとつに

創価学会の謗法を契機とし、日興門流の再興を求めて起こった正信覚醒運動は、今日まで約35年間、全国の正信会寺院・布教所を信仰の依処として運動を展開してきた。正信会ではかねて全国を17の教区に分け、各教区より代表の委員を選出して委員会を構成し、合議制で民主的な会の運営をはかってきた。
しかし、各僧侶と信徒の道念によつて自発的に起こった運動であつたがために、現在まで求める信仰は同じでも、運動の理念や路線については各僧侶や寺院・講中の意見は同様ではなかつた。そのため種々に混乱があつたことも事実。近年、包括法人の設立をめぐる意見の相違が深刻となり、批難中傷まで展開されるにおよんで、昨年の秋、岡田法裕師は正信会議長の職を辞任した。

できないものかと、「和を以て貴しとなす」となるよう、故事を引いてお話をさせていたなど、融和を第一として舵取りを行い、ある程度は善い方向に向かつているものと思つていました。

それが、一昨年春に包括法人が認証され、会計が包括法人に移された途端に元の木阿弥です。私は、「委員会」で審議し全体会議にかわる投票で包括法人を設立することが議決されたので、それから、宗教法人正信会が認証されれば、当然のごとく宗教団体から宗教法人に会計は移されるもの」と思つていました。単立法人の認証を受けているところは、皆そのようにしたのではないでしょうか。



財務の移管については委員会承認議決されましたが、問題ありとの意見が出されました。その時、私は「比翼」の譬えを引き、共働きをしている家庭の話などして、宗教団体「正信会」、宗教法人「正信会」と正信会のと

変残念に思つておりました。新年度からは監正会の勧告を受けて整合性の小委員会が設置され、さきの全体集会でも財務に関する意見の発表を行いました。これからは僧侶らしく良識にそつて改善されて行つてほしいと思つておりましたが、あのような十月度の教区意見です。一読して運動の未来に寄与するものとは思えませんでした。このような状態がこれからも続くのかと思うとき暗鬱たる思いにかられたのです。

賢明な諸尊師にはすでにおわかりのことと存じますが、包括法人や財務管理が問題の根本ではなく、法義信仰観と運動路線の対立が根本なのです。実に深刻な問題ではありません。この度の教区意見を拝見し、非力な私には今後重い職責を果たしていくことが出来ないかと判断した次第です。どうか苦衷ご理解のほどお願い申し上げます。

私は僧侶たる者は、自分の垢を払い、柔和忍辱の衣を着て、思いやりがあつて、素直で正直な人格を持ち、実際に日常で、その心がけを実行すること肝要と思つています。
法華経は人の振る舞いを教えています。地獄と浄土については、「自分本位の利欲にふけり、身勝手に行動し、憎しみ・怒り・うらみ・つらみ・ねたみを抱き、うぬぼれて奢りにふけり、人々に苦しみや悩みを与え、仏の教えを誇るものの胸の内は、地獄を表している。これに対し、あらゆる人々の苦悩を取り

覚醒運動のより良い前進を願ひ

私は僧侶たる者は、自分の垢を払い、柔和忍辱の衣を着て、思いやりがあつて、素直で正直な人格を持ち、実際に日常で、その心がけを実行すること肝要と思つています。

ここでは同じなのだから、色々な方法を考えて下さいと提案しました。またすでに「合意書」が作成・締結され、包括法人が勝手に財産を使うことはできなくなっています。それなのに、そのことに関して横領で訴えるとか、三十一名による議長への質問状、中谷道尊師による監正会への訴えがあり、その対処に翻弄された二期目でした。
ここ数年間の教区意見を拝見し、こんなにもお互いを信じあうことが出来ないのかと大

除き、喜びや安らぎを与え、一心に努力し、苦難にくじけずに仏のお教えにしたがつて生き、慈悲・感謝・尊敬の念をつらぬいて仏の道を歩み続ける心こそ仏の浄土に住むものである」と説かれています。

私たち正信を願う者は、苦しむ者に共感同苦し正直に慈悲の心をそそぎ続け、大聖人の御教えのもとに異体同心することが肝要でありましょう。言うは易く行ふは難しでありますが、「思いやりの心」「信じあう心」「心の絆」を取り戻したいものです。そのことを念じまして議長辞職の挨拶と致します。

長い間ご支援・ご協力を賜りました皆様に心からの感謝を申し上げます。「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」との思いであります。職責を全うできなかったことにつきまして深く陳謝申し上げます。

正信覚醒運動のより良い前進を願ひ、皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

敬 具

平成二十三年十月二十三日
信敬寺 住職 岡田 法裕
正信会会員各位様

その後の動き

10月度委員会での岡田議長の辞任表明によつて、現状認識を共有する川井泰円・高橋恩道の両副議長と各部署長はそれぞれその職

を辞した。また、17名の教区委員の内9名が、現在のシステムを見直して新たな機構の構築を求める意見を会内に提示し、11月11日に東京で「時局意見交換会」を開催した。

意見交換会の趣旨に賛同する者は69名、当日の会合には33名が出席し、現況報告と今後の機構について、包括法人の活用などのスピーチの後、それぞれが運動推進のための意見を開陳、最終的に「提言と決意」を議決した。

提言では「1、宗開三祖の教えを真摯に求め、宗教法人を活用して運動を展開すること。2、任意団体正信会と法人正信会によつて財務管理を適正に行うこと。3、新たな正信会機構の構築について、現在の17教区選出委員による委員会が、その機能を喪失したが故に岡田議長は辞意を表明した。現機構では建設的な意見の集約もならず、活動が停滞するだけであるから、包括法人の活用を求めるグループと、包括法人を批判するグループ、その他のグループ等によつて、正信会という緩やかな傘のもとに『連絡協議会』を設置して運営をはかるべきである。」と69名の連署にて主張。

新たな機構を求めるこの「提言と決意」は直ちに会内諸師に送達された。その後、11月の委員会では現行システムのもとで議長を選出するか否かで意見が対立、教区持ち帰りとなり12月度委員会に持ち越された。

（つづく）

編集だより



覚醒運動の一層の推進をはかり、ここに「妙風」を発刊することとなった。運動もすでに35年を経過、当初の熱い情熱の運動から宗開三祖の教えと信仰を求める運動に昇華してきたかに見えるが、運動の総括を行う機会を失したために、今日、会内において信仰観や運動理念、路線に対する意見の違いが明らかになってきた。時にあたって、富士日興門流の法華講新聞が刊行されるのは歴史の必然というべきものであろう。今までのしがらみや悪しき慣習などを正面から論じることが難しかった。宗門や学会の批判はできても自己批判は十分ではなかった。情報の公開も適切であったかどうか疑問が残る。

この「妙風」は富士日興門流の教えと信仰を世に弘めて行くことを眼目としている。その上で運動に関する情報を適切に報じ、理念と目的を明確に伝え、運動の未来を切り開いて行く新聞をめざしている。読者諸賢にはより良き紙面のためにもご意見ご叱正をお願いしたい。

妙風発刊に寄せて

「有志の会」代表 荻原昭謙師



立正安国論
の「弟子一仏
の子と生まれ
て諸経の王に事う、何ぞ仏
法の衰微を見て心情の哀
惜を起こさざらんや」との
御文が、私の出処進退を決
める時にはいつも胸中に蘇
る御金言であります。

昭和49年5月、静岡創価
学会が、浅間神社の祭り
のパレードに参加すると聞
き、これを阻止すべく、県
長に面談を求めて本部に出
向いた時もそうであった

覚醒運動のさらなる推進
を願って「有志の会」を結
成した私達は、志を同じく
する人々と共に、「護法」
の旗印のもと、正信覚醒運
動の未来を開いて行くこと
を願い、宗開三祖の「富士
の立義」を求めて祖道の恢
復をめざし、百年・二百年
の河清を俟つ依託として、

我われの正信覚醒運動は
学会の邪義謗法を正すこと
がきっかけではありましたが、一宗総懺悔という気持
ちで、日蓮正宗本来の教義

し、正信覚醒運動に立ち上
がる決意をした時もそうで
ありました。

「我等こそ富士の本流」
と自覚せざるを得なくなっ
た時も、この御金言を胸に、
生涯「日興が末流」であり
通したいものと決意いたし
ました。

近現代の日蓮正宗が、富
士の立義、富士日興門流の
御法門と伝燈から著しく逸
脱し、法主本仏論、戒壇本
尊の偶像化とその利用に墮
落し、間違つた広宣流布と
本尊流布の名のもとに、信
心の二字でしか受持出来な
い本尊を、いかに御不敬し
て来たかを我われは深く反
省しなければなりません。

「宗教法人正信会」を活用
してまいりたいと念願して
います。

「宗教法人正信会」を活用
してまいりたいと念願して
います。

たる富士の立義の再確
認と、「祖道の恢復」「宗
風の刷新」こそが目的

「宗教法人正信会」を活用
してまいりたいと念願して
います。

たる富士の立義の再確
認と、「祖道の恢復」「宗
風の刷新」こそが目的

たる富士の立義の再確
認と、「祖道の恢復」「宗
風の刷新」こそが目的

富士の清流を求めん

3月20日春分の日、
例年より桜梅の開花も
遅れ、まだまだ肌寒さ
の残る中、千葉県香取
市・円乗寺（丸岡文乗
住職）では春季彼岸会
法要が奉修された。



また、昨年3月発生
した東日本大震災にお
ける物故者の一周忌に
際し、併せて講中一同
でその塔婆を建立し、
追善供養をおこなつ
た。

法要後には、執事の
蓮が己心の仏界を此の
略）相構へ相構へて、
真乗房が法話し、『義
文に依りて顕はすな
浄房御書』の一節「寿
り。（中略）日蓮云く、
量品の自我偈に云く
『一心に仏を見たてま
法なり、欲とは蓮なり、

法要後には、執事の
蓮が己心の仏界を此の
略）相構へ相構へて、
真乗房が法話し、『義
文に依りて顕はすな
浄房御書』の一節「寿
り。（中略）日蓮云く、
量品の自我偈に云く
『一心に仏を見たてま
法なり、欲とは蓮なり、

法要後には、執事の
蓮が己心の仏界を此の
略）相構へ相構へて、
真乗房が法話し、『義
文に依りて顕はすな
浄房御書』の一節「寿
り。（中略）日蓮云く、
量品の自我偈に云く
『一心に仏を見たてま
法なり、欲とは蓮なり、

千葉県 円乗寺

に合わせ、
先祖有縁の
諸精霊の追
善供養を志
す篤信の檀徒が遠近か
ら大勢集い、懇ろなる
読経・焼香・唱題をた
むけた。

春のお彼岸

見とは華も捨て命をも惜しまざ
なり、仏れと強盛に申せしは是
とは経なれなり」を拝して、私
り。此の
たがこの信心によつ
て得る成仏とは何かが
解説され、日蓮大聖人
の己身の仏界について
に仏を見る、心
や、御本尊を拝するこ
を一にして仏を
見る、一心を見
れば仏なり。（中
すべてを終えた午後
2時半すぎ、檀徒は、
それぞれが願い出た塔
婆を携え、墓参に向か
い帰途についた。

北海道 行足寺

北海道札幌市の清涼
院と行足寺（共に川田
乗善住職）では、18



日と20日の両
日、午前11時
と午後1時に
それぞれ春季
彼岸法要が執
り行われた。
例年よりも寒
さも厳しく雪
も多い今年の



霊への追善
供養のため
に参詣。
法要は川
田住職の導
師のもと、
献膳・読経・
焼香・唱題
と進み、そ
地獄についてわかりや
すく法話をを行った。法
要後おはしが振る舞わ
れ、参詣者は追善の供
養ができたことを喜
び、春の訪れをほのか
に感じて菩提寺を後に
した。

お彼岸。札幌では彼岸
の後、住職は一生成仏
抄「衆生の心がけるれ
ば土もけがれ、心清け
れば土も清しとて、浄
土と云ひ穢土と云ふも
土に二つの隔てなし。
只我等が心の善悪によ
ると見えたり。衆生と
（行足寺記録係）

報恩と感謝の ところをこめて

兵庫県 神通寺

春光うららかな3月
20日、明石市の神通寺
（川井泰門住職）にお



いて午前11時より春季
彼岸会法要が執り行わ
れました。

前日までのハッキリ
しない天気とはうらは
らに、春らしい天候に
恵まれての法要に、参
詣者も清々しい思いで
お参りされていまし
た。読経、唱題、塔婆
回向と焼香と如法に法
要が奉修され、最後に
住職より法話があり、
散会となりました。

法話の中で、「成仏
する道は、ただひたす
ら南無妙法蓮華経と唱
人の御指南と行動を規

範として誤りの
無いよう信心に
励み、法燈相続
令法久住に努め
るべきである」
と強調されまし
た。参詣者一同
は、心も新たに
寺院をあとし
ました。

なお、午後2
時から一昨年7月25
日開所した神通院（川
井泰雄住職）において、
同じく春季彼岸会法要
が行われました。

（神通寺記録係）